

# 住宅業界における取組み

一般社団法人 住宅生産団体連合会

令和8年3月5日

# 住宅生産団体連合会とは

当連合会は、国土交通省所管の社団法人として平成4年6月に発足し、低層住宅を建設する団体を中心に、中高層住宅から住宅設備機器類関連に至る迄、幅広い団体で構成されています。（団体会員9、企業会員20）

住宅産業に係る社会的な要請や業界内部の諸問題に対応し、住宅の質及び住生活の向上に寄与することを目的として設立され、住宅の生産・供給に関して主に次のような業務を行っています。

- (1) 税制・金融・補助・規制などに関する調査・研究ならびに提言
- (2) 産業界、消費者、マスコミに向けての情報発信
- (3) 主要各国の住宅団体との積極的な国際交流

# 現状の取組み内容

## ◆「低層住宅建築工事 安全衛生ガイド」の作成・公表

2025年7月、『「低層住宅建築工事 安全衛生ガイド」～これからの新しい労働災害防止対策 会員企業の取組み好事例～』と題する、労働災害を防止し、適正な現場環境を構築することを目的とするガイドを作成し、当連合会HPにて公表した。

この中で、会員企業各社における元請主導の自主的な安全活動による対策例などを取り上げ、とりわけDXの活用や新たな規制への対応などを通じた先進的な労働安全衛生対策の取組みを紹介している。

### ◆今後の労働災害防止の4つの方向

1. 新しい科学技術の活用
2. 新しい規制への対応
3. 低層住宅建築工事の繰り返し災害への新しい対策
4. 作業員の内的要因への対策・

# 現状の取組み内容

## 1. 新しい科学技術の活用

建設現場のDX活用例として、Web活用、デジタル巡視、ドローン撮影、AI活用などが挙げられ、デジタル技術を使って効果的・効率的に労働災害防止を進め、安全管理者が、現場の実態をより詳細に把握し、効果的な対策を打ち出すことが可能となる。



# 現状の取組み内容

## 2. 新しい規制への対応

最近の労働安全衛生法の改正など新たな規制に的確に対応することが求められている。

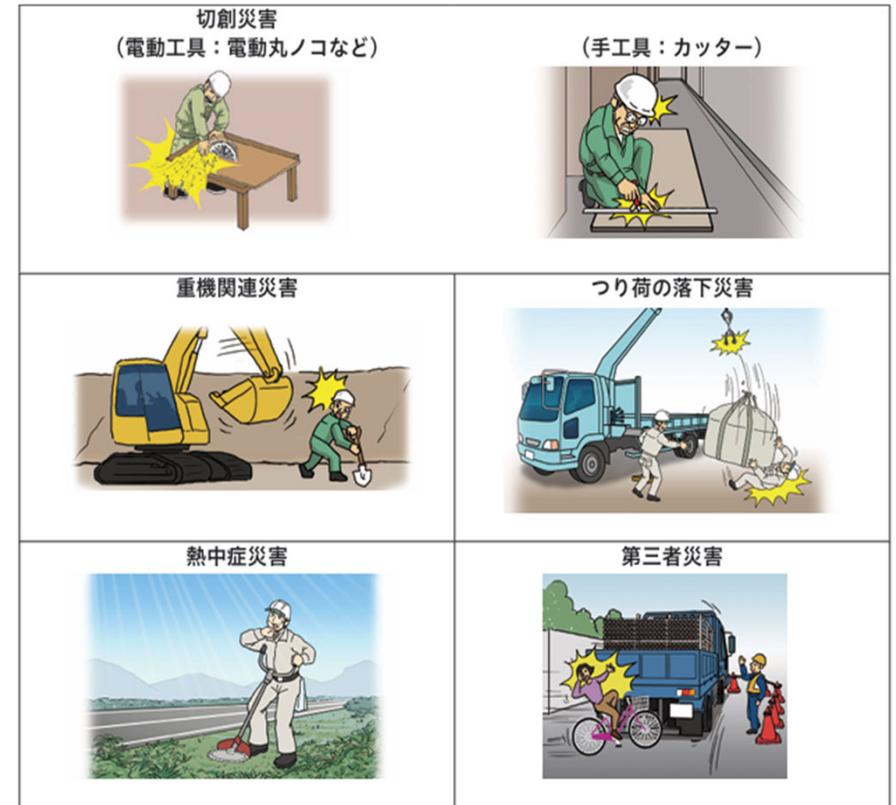
- ① 化学物質の自律的管理  
(令和5年4月、改正労働安全衛生規則等の施行)
- ② 足場の点検者の指名  
(令和5年10月、改正労働安全衛生規則の施行)
- ③ トラック荷台昇降設備の設置等  
(令和5年10月、改正労働安全衛生規則の施行)
- ④ デジタル巡視 (令和6年6月、厚生労働省の通達)
- ⑤ 熱中症対策 (令和7年6月、改正労働安全衛生規則の施行)
- ⑥ 高年齢者対策  
(令和7年5月労働安全衛生法が改正、令和8年4月施行予定)

# 現状の取組み内容

## 3. 低層住宅建築工事の繰り返し災害への新しい対策

現在も繰り返し発生している労働災害には新しい対策が求められている。

- ① 脚立からの墜落・転落
- ② 脚立以外の災害
  - ・ 切創災害
  - ・ 重機関連災害
  - ・ 吊り荷落下災害
  - ・ 熱中症災害
  - ・ 第三者災害



# 現状の取組み内容

## 4. 作業員の内的要因への対策

死傷災害の下げ止まりには、作業員の内的要因が大きく関わっている。代表的なものには、高年齢者の加齢に伴う心機能の低下、日本語がよくわからない外国人、作業員の過な疲労なども挙げられる。

### ① 高年齢者（加齢に伴う心身機能低下）

加齢に伴うバランス感覚、敏捷性、視力、筋力等の心身機能が低下し、それが原因で高年齢者の労働災害発生率は高くなっている。

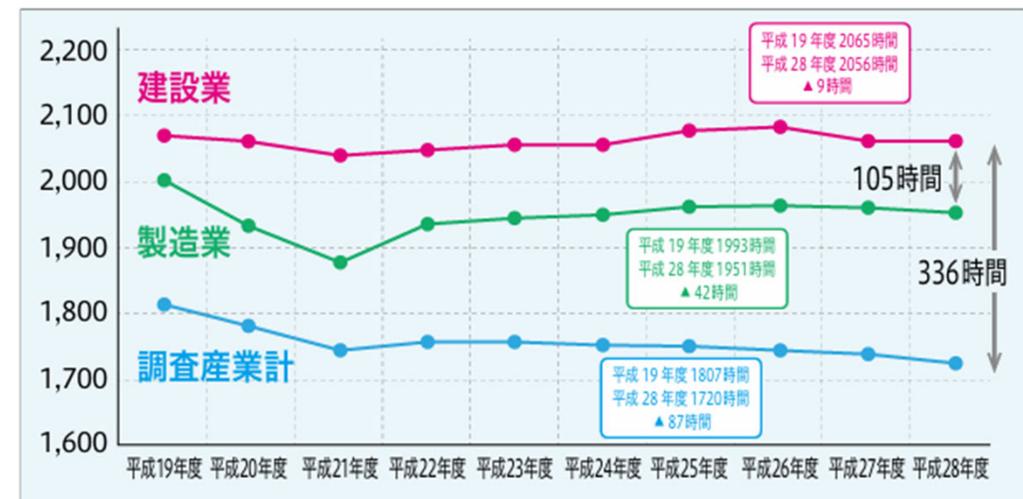
### ② 外国人（日本語がよくわからない）

日本語がよくわからず、安全指示などが伝わらないこと、文化の違いで日本の仕事の進め方が十分に理解できないことなどがあげられる。

### ③ 疲労（心と身体への健康対策）

長時間労働により過度に疲労し、注意力、集中力などの低下につながり、ヒューマンエラー災害の原因にもなる。

建設業の長時間労働 年間総実労働時間の推移



出所：総務省「労働力調査」（平成29年）をもとに国土交通省作成

# 会員企業各社の労働災害防止の取組み好事例

## ◆Web配信による作業員等教育

### 【事例1】 スマホ配信・テストで理解度確認

動画教材による「Web教育講座」を開設し、全国の現場で働く職長、作業員を対象に、スマートフォンを使って、「ヒューマンエラー対策」、「安全の基本」などを配信。1コース8分程度と短時間で学ぶことができ、受講後は確認テストが行われる。時間と場所を選ばずに受講できる点が特長。

### 【事例2】 超時短教育（1分動画）

頻発している脚立からの墜落災害を防止するため、忙しい作業員でも受講が進むように1分動画を制作して配信。脚立の正しい設置方法、脚立上での正しい姿勢のポイントをコンパクトにまとめている。

a. 脚立の置き方



b. 脚立の基本姿勢



# 会員企業各社の労働災害防止の取組み好事例

## ◆ KY活動アップデート

### 【事例1】KY活動一元管理システム

KY活動の水準向上のため、本社で一元的にKY活動を管理する取り組みであり、KY活動にタブレット端末を使い、そこに現場に潜む危険の選択肢などが示され、それにより効率的・効果的にKY活動を行うものである。

また、全国のKY活動を一元的に管理することにより、どこの現場がどのようなKY活動を行っているか把握することができ、KY活動の活性化につなげている。

### 【事例2】スマホ1人KY

スマホを使って1人でKY活動できるアプリを開発し、そこに危険の洗い出しのヒントなどのサポートメニュー等が用意されている。

# 会員企業各社の労働災害防止の取組み好事例

## ◆ Webカメラ活用

### 【事例1】 オンライン安全ミーティング

社員支給のiPadやiPhone、モバイルパソコンなどを用いて、現場監督と職方が参加するリモート安全ミーティングを行っている。各職種による労働災害の傾向（ヒヤリハット含む）等を共有することにより頻発労働災害を防止し、日々のKY活動にも役立っており、全国展開している。

### 【事例2】 オンライン安全パトロール

様々な事業所のメンバーが参加するリモート安全パトロールを実施している。事業所の垣根を超えた安全パトロールを行うことにより、自らの事業所だけでは気づかなかった現場の良い点、改善点などが見え、安全な現場づくりに役立っている。

## ・リモート安全ミーティング/安全パトロール

### 現場監督と単独現場の場合

通常の現場巡回時と同じ雰囲気でお話し、当日の情報収集や職方への注意喚起をおこなう。



# 会員企業各社の労働災害防止の取組み好事例

## ◆ Webカメラ活用

### 【事例3】 Webカメラ現場設置

現場にWebカメラを設置して

- ①リアルタイムの現場状況
- ②遠隔地の現場状況
- ③近隣状況     などを確認

毎月、Webカメラ設置現場リストが更新され、  
管理者はスマホ、iPadなどで閲覧できる。

### 【事例4】 ドローン屋根点検

ドローンを使って屋根点検を行う。

これにより、通常の屋根点検で発生のおそれがあるハシゴ、屋根からの墜落災害を防止することができる。



# 会員企業各社の労働災害防止の取組み好事例

## ◆ 高年齢者対策

### 【事例1】 自社社員に高年齢者対策研修

自社社員を対象に高年齢の作業員への配慮を求めた研修を実施してる。

#### 研修の目的

- ①加齢に伴う心身機能の低下を理解し作業への影響度合いを知る
- ②高年齢者の特性を理解した上で適切な配慮を行い災害防止に努める
- ③高年齢者を決して排除しない
- ④少子高齢化が進展する中、高年齢者を戦力とすべく高年齢者の特性に応じた安全対策を行う

### 【事例2】 心身機能の低下を補う設備・装置の導入

- ・ 通路を含めた作業場所の照度を確保する
- ・ 階段には手摺を設け、可能な限り通路の段差を解消する
- ・ 作業者は防滑靴を利用する
- ・ 墜落制止用器具、保護具等の着用を徹底する

#### 1. 片足立ち

**概要と目的**  
椅子に片足を浮かせて座り、そのまま片足で立ちあがる。  
⇒脚力を測定する。

**準備するもの**  
・椅子（キャスターが付いてないもの）

**測定方法**  
①腕を組んで椅子に座り、片足を軽く浮かせる。  
②片足を浮かせたまま、反動を付けずに立ち上がる。

**合格基準**  
立ち上げられること  
※立ち上がってもすぐにバランスを崩すときは不可



#### 2. バランス歩行

**概要と目的**  
204材の上を5m歩いて渡るのにかかる時間を計測する。  
⇒ バランス感覚を測定する。

**準備するもの**  
・長さ5m分の204材  
・ストップウォッチ

**測定方法**  
①長さ5m分の204材を平らな床に平使いに敷く。  
②204材の上を渡るのにかかった時間を計測する。

**合格基準**  
3秒以内に渡りきれる。



#### 3. 転倒予防のためのストレッチ

≪プラス1ストレッチ≫

- ①片方の足を1歩、2歩、半歩前に出し、前足の膝を曲げて後足の裏側をストレッチする。（5秒静止）
- ②体重を後足側に移し、膝を軽く曲げると同時に、前足のつま先を上に向けて頭・腰・前足の踵で「く」の字の姿勢をとる。（5秒静止）
- ③もう一度前足に体重を移し、後足の甲を地面へ向かって押すように、すねの前側の筋肉をストレッチする。（5秒静止）

→しなやかな筋肉を取り戻し足首の動きがスムーズに!

#### まとめ

1. 作業別の安全のポイント  
→軽作業だから安全ということではない。
2. 自分の体力年齢の自覚を促す  
→歴年齢ではなく心身の能力を把握することが肝要。
3. 熟練者の特徴が起因する災害に注意  
→熟練者だからこそ落とし穴がある。
4. 健康診断の定期的な受診  
→既往症の有無を踏まえた健康状態も自分の能力。
5. 身体機能の衰えをカバーする道具を使用  
→安全靴、グラインダのハンドル、滑り止め手袋等。

※経験から培われた巧みな技と知恵を発揮できるよう、配慮し、支えていきましょう!

## 今後の課題

- ・ 取組みの好事例は上記以外にも外国人技能者、熱中症対策、重機関連災害対策など多岐にわたり紹介しているが、多くは大手ハウスメーカーによるものであり、費用、人材などのリソースに乏しい中小零細工事店には実施が難しいものもある。
- ・ DXの推進により施工監理におけるバックオフィスの業務が増えてくると考えられ、女性技術者や高齢技能者の業務の受け皿となる可能性もあり得るが、具体例にはまだ欠ける。
- ・ DX推進に関してはシステムや機器メーカーが開発するものを使用する工事店の要望がかみ合っていない部分もあり、現場の状況とメーカーの開発方針のすり合わせが今後も必要。